

## H22 年度秋田大学研究者海外派遣事業により 実施した研究・教育活動の成果報告について

2015 年 1 月 20 日

所属・職名：教育文化学部日本・アジア文化講座 准教授

氏名：高村 竜平

派遣先機関名：済州大学校耽羅文化研究所（国名：大韓民国）

派遣期間：2010 年 8 月 16 日～2010 年 12 月 11 日

研究課題・目的：在日済州人の親族関係と家族墓地

報告者は韓国・済州島における墓地問題について研究を続ける一方で、在日済州島出身者の生活史調査チームにも所属し、聞き取り調査の結果を発表してきた。今回の渡航では、在日済州島出身者のつくった墓地を中心に、散在する墓地を家族・親族単位であつめる「家族墓地」の造成と管理について調査した。それにより、世代交代に伴う墓地の変容過程について知ることができる。あわせて、若い死者など「普通でない死者」の墓についても調査した。韓国では、結婚し子どもをもうけて「先祖」となることが理想的な人生であり、墓の造成と管理も、子孫がいることが前提となっている。若い死者のような普通でない死者が、家族墓地の造成や管理に際してどのように扱われるのかも、家族観をあらわすひとつの材料となるのである。

### □研究成果（列記願います）

#### ・論文

- ・ “Funerary Sites in Seoul: A History Marked by Colonial Experience”, Natacha Aveline-Dubach (ed.), *The Invisible Population – The Place of the Dead in East Asian Megacities*, Lexington Books, Lanham, pp.165-191, 2012.05
- ・ 「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（9・上）—梁寿玉さんへのインタビュー記録—」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』、11 号、2011/2（共著）
- ・ 「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（9・下）—梁寿玉さんへのインタビュー記録—」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』、12 号、2011/6（共著）
- ・ 「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（12・上）—李性好さんへのインタビュー記録—」、『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』、17 号、2013/2（共著）
- ・ 「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（12・下）—李性好さんへのインタビュー記録—」、『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』、18 号、2013/6（共著）

#### ・学会発表

- ・ 「済州島と日本における「普通でない死」に対する対応」済州学会（韓国）第 32 回研

究大会、済州商工会議所、2010年11月19日

- ・ 「在日済州島出身者の口述史と四・三事件」朝鮮史研究会第48回大会、立命館大学衣笠キャンパス、2011年10月23日

#### ・その他

『安住の地を求めて—在日済州人生活史1』(共著)、図書出版ソニン、ソウル、2012年3月(「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査」シリーズの一部の韓国語訳)

#### □教育活動等(列記願います)

・ 調査結果の一部を、2011年度「朝鮮文化論 I」・2012年度「朝鮮文化論 II」の授業素材として活用した。

#### □海外派遣事業中の教育・研究活動が、帰国後の研究等の活動にどのように反映されたかを概括ください。

滞在中には、これまで調査してきた村落での事例調査だけでなく、済州島内の他村落での事例も調査することができた。その内容の一部は、滞在中に現地で開かれた学会で報告し、現地研究者からのコメントもうけることができ有益であった。また、日本でおこなっている在日済州島出身者のインタビュー調査の一環として、今回の調査で面識を得た方のインタビューをおこなうことができた(未発表)。既存のインタビュー調査の成果発表においても、済州島現地に滞在していたことにより、追加調査がスムーズにすすんだ(「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査」シリーズおよび韓国語訳『安住の地を求めて—在日済州人生活史1』)。さらに、この滞在をきっかけとして、当時設置準備がすすんでいた済州大学校在日済州人研究センターとの縁ができ、2014年9月には同センター主催のシンポジウムで発表する機会を得た。報告者自身の体調不良等もあり、いまだ十分な研究成果を発表できてはいないが、今後も受け入れ先となった済州大学校との関係は維持しつつ、成果を論文として発表していく予定である。